

腸管出血性大腸菌（^{オー} O157）感染症患者の発生について第2報

平成29年8月14日付けで公表した腸管出血性大腸菌感染症（30歳代女性）の職場の同僚1名の感染を確認したので、次のとおりお知らせします。

記

1 患者の発生状況

- (1) 患者 市内在住の女性（70歳代）
- (2) 経緯 8月7日（月）腹痛、嘔吐、下痢が出現し、医療機関Aを受診。
8日（火）血便が出現したため、再度医療機関Aを受診し、検便を実施。
9日（水）医療機関Bを受診し、入院。
- (3) 診断 8月17日（木）腸管出血性大腸菌O157（VT2）感染症と診断。
- (4) 症状 現在も入院中。症状は軽快している。
- (5) その他 他の同僚についての検便の結果は全て陰性。

2 患者及び感染源調査

- (1) 患者の喫食状況調査及び行動調査を実施
- (2) 患者の健康状況調査を実施

3 対応

- (1) 患者及び接触者に対し衛生教育を実施
- (2) 患者自宅の消毒を指示

4 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況【参考】

別紙のとおり

予防対策について

- 食べ物は十分加熱しましょう
特に食肉については、生食を避け、中心部まで十分加熱するようにしましょう
- 手洗いと消毒を徹底しましょう（調理の際、食事の際、トイレの後など）
- 下痢等の症状がある場合は、速やかに医師の診察を受けましょう

【参考】

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況（患者数）

	平成 29 年	平成 28 年 同時期延べ数	平成 28 年 総数
	県内 (うち市内)	県内 (うち市内)	県内 (うち市内)
○157	10 (本事例を含む) (8) (本事例を含む)	0 (0)	4 (3)
○26	7 (1)	3 (1)	39* (34)
○145	0 (0)	1 (0)	1 (0)
○121	0 (0)	3 (0)	3* (0)
○91	3 (0)	0 (0)	0 (0)
腸管出血性 大腸菌感染症 計	20 (9)	7 (1)	47 (37)

※○26及び○121の混合感染1名はそれぞれに含む。